

SGS(シルバー大学院)第2分科会

平成17年1月31日

グループ学習報告書

—農村と都市の交流および地産地消の実践現場である—

テーマ 「道の駅の現状と在り方」

第2分科会メンバー

安部 浩三 ✓  
河野 留美子 ✓  
古西 啓祐 ✓  
西尾 孟三 ✓  
三好 光志 ✓  
吉田 忠史 ✓

大西 隆史 ✓  
川田 陽太郎 ✓  
嶋谷 徹 ✓  
谷垣 健治 ✓  
山口 俊雄 ✓

# 「道の駅の現状と在り方」

## 目 次

	<u>ページ</u>
I. はじめに	1
II. 「道の駅」のアンケート調査	1
III. 「道の駅」の生産者からの聴取内容	5
IV. 「道の駅」の利用者アンケートの調査	6
V. おわりに	10
[謝 辞]	11
[参考資料]	11
[別 紙 - 1] . 「道の駅」のアンケート調査用紙	
[別 紙 - 2] . 「道の駅」の利用者アンケートの調査用紙	
[別 表 - 1] 兵庫県「道の駅」リストおよび調査担当グループと訪問日	
[別 表 - 2] . 「道の駅」の利用者アンケートの調査集計結果	
[添付資料] . 各「道の駅」のアンケート調査結果	

# 「道の駅」の現状と在り方

## I. はじめに

人間は食べ物がないと生きていけない。この当たり前のことが将来大丈夫なのだろうか。？

私たち SGS のメンバーは、保田先生のご指導のもとで主として農業とその経済の問題を勉強している。これを進めるほどに将来(子・孫・・・の時代)の食料の供給や安全性について心配せざるを得ない。世界的な人口増加、中国、インドおよび開発途上国の工業化などが進むと食料の需給は供給不足になるのは確実に予想できる。

食料の 60%を輸入に頼っている(食料の自給率/カロリーベース 40%) 我が国においてはさらに厳しい状況である。

このような大きな問題はさておき、SGS では、メンバー全員で検討した結果、共通検討課題として“兵庫県における農(漁)村と都市との交流の現状と展望”を揚げた。このテーマに基づき第 2 分科会(11 名)は農村と都市の交流および地産地消の実践現場の一つである「道の駅」を課題として学習・アンケート調査することにした。

「道の駅」は、1993 年に 24 時間無料で利用できる駐車場とトイレがあり、道路や地域の情報を提供できる機能を備えている国土交通省が認定する施設(設置者は市町村や第三セクターなどの公的団体)として設立された。その後併設されたその土地ならではの特産物や地元の農産物(水産物)が消費者に大人気で、利用者が急増している。また、地方で農業者など地場産業の振興に一役買い、雇用創出にも寄与している。

現在、全国で 785 カ所、兵庫県でも 26 カ所が設置されている。

今回の調査は、兵庫県の各道の駅と道の駅に農産物を納入している生産者(農業者)および利用者(消費者)についても実施した。

## II. 「道の駅」のアンケート調査

兵庫県の「道の駅」26 カ所について、アンケートによる調査を行った。アンケートは 26 ケ所全駅に郵送した。その内 13 カ所の「道の駅」を訪問し、面談聴取した。後の 13 カ所については、回答アンケートの返送をお願いした。その結果、21 カ所の「道の駅」より回答を得ることができた。

アンケートでは農産物(水産物)を主体として調査し、道の駅活性化のための施策と利用者に対する要望などを項目に加えた。アンケートの内容を別紙 - 1 に、兵庫県の「道の駅」26 カ所のリストおよび担当したグループと訪問日を別表 - 1 に示す。

### 1. 「道の駅」のアンケート集計結果

表 - 1 にその結果を示す。

- 1-1. 開業年月 : 一番早く開業した駅 あさご (1993.4) *宝飾 1988年オープン*  
一番最近開業した駅 淡河(2003.4)
- 1-2. 売上高の推移 : 約 60%の駅が順調に売上げを伸ばしており、年伸び率 10%以上の駅も 50%を超えている。これは各駅がその地域に適用した運営に努力した成果が消費者に受け入れられていると結果と思われる。

順調に売上げを伸ばしている駅 ; あいおい白龍城、しんぐう、播磨いちのみや、いながわ、とうじょう、みき、北はりまエコミュージアム、あわじ、神鍋高原、村岡フォームガーデン、あさご  
なお、その他の道の駅はほぼ横這い(3 駅)、または回答なし。 (太字 伸び率 10%以上)



道の駅名	あいおい 白龍城	しんぐう	播磨 いちのみや	宿場町 ひらふく	はが	ちくさ	いながわ	とうじょう	淡河	みき	北はりま エコミュージアム
開業年月	2002.07	1996.12	2000.04	1999.09	1993.04	1993.04	2000.11	2000.04	2003.04	2000.04	2003.09
取り扱っている商品											
野菜および加工品	○ (35%)	○ (20%)	○ (10%)	○	○ (10%)	○ (90%)	○ (70%)	○ (100%)	○ (85%)	○ (50%)	○ (10%)
果実および加工品	○ (18%)	○	○ (2%)	○ (3%)	○ (20%)	○	○ (1%)	○ (30%)	○ (10%)	○ (10%)	○ (2%)
お米	○ (3%)	○ (7%)	○ (5%)	○		○ (10%)		○ (100%)	○ (5%)		○ (2%)
水産品および加工品	○ (18%)										
畜産品						○			○		○
その他									○花		
( )内地元比率 %											
有機(特別)農産物への意識	している	少ししている	少ししている	少ししている	少ししている	している	少ししている	している	していない	少ししている	している
有機(特別)農産物の割合	85%以上		0%		10%	30%	5%	80%			50%
地元生産者について											
地元生産物の提供者は 人	52	71	5	10	20	289	210	105	75	12	200
その平均年齢は 歳	70	65	65	65	65	60	65	65	68	65	60
地元の人の割合は %	60~70	20	30	50	20	10	20	50	10	80	40
売行きランキング											
野菜											
第1位	とまと		しいたけ		大根	しいたけ	とまと	いちご	大根	白菜	山の芋
第2位			大根		白菜	旬野菜	きゅうり	山の芋	きゅうり	大根	しいたけ
第3位			キャベツ		キャベツ	山菜	なす		なす	レタス	黒豆
果実											
第1位	柿		梨	梨	梨		柿	ぶどう	柿	みかん	ぶどう
第2位			柿	みかん	柿		ゆず	桃		ぶどう	キーウイ
第3位			りんご	柿	りんご		いちじく			梨	柿
水産品											
第1位	ちりめん										
第2位	くぎ煮										
第3位											
地場生産品(特産品)	上記商品 ゆず製品 みそ	大黒餅 手延そうめん 豆腐	そうめん 黒大豆製品 揚げかきもち	みそ こんにやく お茶	自然薯 りんご こんにやく	やたらづけ	生しいたけ 寒天	山の芋 釣り針	新鉄砲ゆり チューリップ	産物・大工道具 ぶどう 地酒(山田錦)	播州織り 和牛コロッケ 地鶏めしの具

道の駅名	R427かみ	あわじ	神鍋高原	但馬楽座	村岡フォー ム ガーデン	ハチ北	やぶ	あさこ	フレッシュ あさこ	あおがき
開業年月	1997.10	1998.03	1993.11	1991.06	1992.06	1998	1994.05	1998.04	2000	1997.04
取り扱っている商品										
野菜および加工品	○ (90%)	○ (70%)	○ (15%)	○ (100%)	○ (15%)	○ (30%)	○ (30%)	○	○ (7%)	○
果実および加工品		○ (80%)	○ (5%)	○ (30%)	○	○ (50%)	○ (20%)	○	○ (3%)	○
お米	○ (100%)		○ (1%)	○	○	○ (90%)	○ (100%)	○	○ (0.5%)	○
水産品および加工品	○	○ (80%)	○	○ (90%)	○	○	○	○	○	
畜産品									○	
その他										
( )内地元比率 %										
有機(特別)農産物への意識	している	少ししている	少ししている	少ししている	している	している	少ししている	少ししている	している	少ししている
有機(特別)農産物の割合	80%	20%	50%	20%	30%	10%	20%		40%	0%
地元生産者について										
地元生産物の提供者は 人	200	6	50	20		60	14	350		53
その平均年齢は 歳	68	60	60	55		65	62	64		60~70
地元の人の割合は %	30	10	20	10		10	30	40~50		10
売行きランキング										
野菜										
第1位		玉ねぎ	すいか	大根	キャベツ	キャベツ	さつまいも	岩津ねぎ	岩津ねぎ	キャベツ
第2位		さつまいも	キャベツ	白菜	とまと	属鈴薯	さといも	野菜	黒大豆	白菜
第3位		大根	とうもろこし	玉ねぎ	ピーマン			みどりしお茶	白菜	枝豆
果実										
第1位		びわ	梨	梨	ネフタリン	梨	すいか		梨	ぶどう
第2位		温州みかん	みかん	柿	りんご	柿	梨		りんご	桃
第3位		すいか	桃	みかん	キーウイ	ネクタリン	柿		柿	とまと
水産品										
第1位		たこ		松葉かに					松葉かに	
第2位		いか		はまち					干しカレイ	
第3位		はまち		いか					ハタハタ	
地場生産品(特産品)		焼あなご 玉ねぎ いかなごのくぎ煮	上記生鮮野菜 栃餅 山椒みそ	青豆みそ クタリンジャ 山椒等の佃煮	生鮮野菜 じゃがいも	黒米(餅米) 栃餅 合鴨の薫製		岩津ねぎ 黒大豆みそ みどりしお茶	岩津ねぎ 丹波黒大豆 鹿肉加工品	こんにやく 切り花 あざみ菜

表-1 「道の駅」アンケート調査集計結果

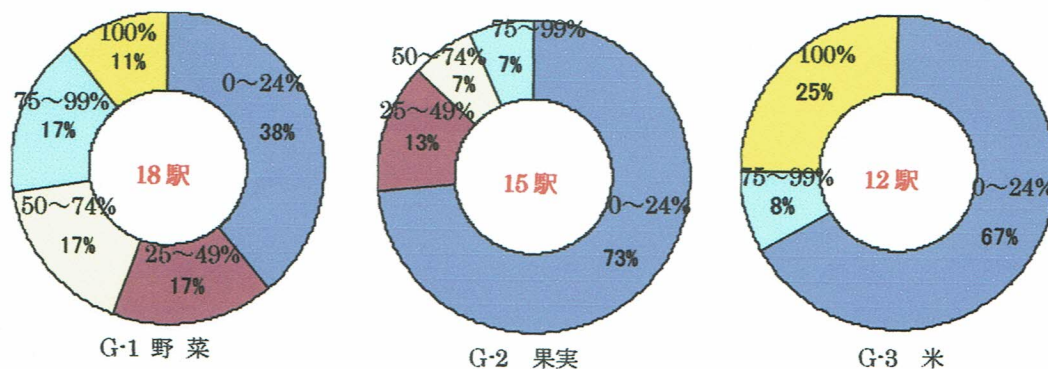


1-3. 取り扱っている食品および加工品

- 野菜および加工品 ; 20 駅(95%)が取り扱っている。1 駅(宿場町ひらふく)は取り扱いなし。
- 果実および加工品 ; 20 駅(95%)が取り扱っている。1 駅(R427 かみ)は取り扱いなし。
- お米 ; 16 駅(76%)が取り扱っている。
- 水産品 ; 8 駅(40%)が取り扱っている
- 畜産品 ; 4 駅(19%)が取り扱っている。

1-4. 地元農産品の占める割合

- 野菜および加工品 ; 100% 2 駅、50%以上 45%
- 果実および加工品 ; 50%以上 14%であり、地元産比率が低いのが目立つ。
- お米 ; 50%以上 33%、100% 3 駅
- 水産品 ; 2 駅すべてが 50%以上



1-5. 売行きランキング (第1位~3位): 調査期間が11月~12月なので主として秋野菜がランクされている。

野菜 ; 大根、キャベツ、白菜など

この他、その地方を代表するものとして

黒大豆 ; 北はりまエコミュージアム、フレッシュあさご

山の芋 ; 北はりまエコミュージアム、とうじょう

岩津ねぎ ; あさご、フレッシュあさご

玉ねぎ ; あわじ

果実 ; 柿、梨、みかん、ぶどうなど。

この他、桃については鳥取、岡山に接している駅で販売されていた。

1-6. 有機(特別)栽培農産物を意識して取り扱っているか ? (G-4に示す)

意識している、少ししているが 95%を超え、全くしていないと回答したのは1駅であった。

1-7 有機(特別)栽培農産物を取り扱っている割合は(G-5に示す)

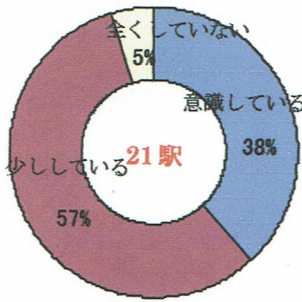
50%以上は 32%の低比率であり、24%以下が 49%を占め、1-6の結果と矛盾した結果である。

1-8 地元生産品(特産品)は何か ? (表1に示す)

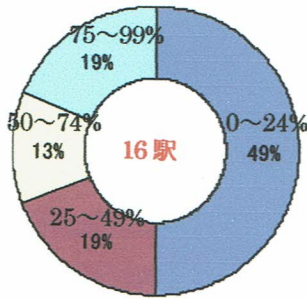
1-9 地元生産物の提供生産者は (G-6に示す) : 5~350人と大きな差があった。

1-10 地元生産者の平均年齢は : 65歳以上が 56%を占めている。60歳以上では 95%。

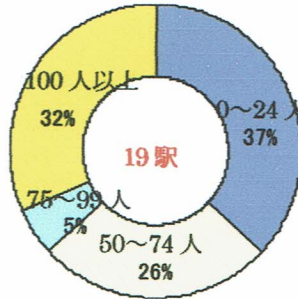
1-11 買い物に来られる人で、地元の人割合は (G-7に示す) : 10~80%と大きな差があった。



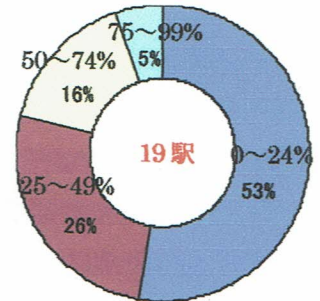
G-4 有機(特別)栽培品の意識調査



G-5 有機(特別)栽培品の割合



G-6 提供生産者の人数



G-7 買い物客で地元の人割合

1-11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫

- (1) JAの協力で生産者に品質(安全・安心)、荷造りや価格などの指導 ; いながわ
- (2) イベントの実施 ; 北はりまエコミュージアム、あわじ、あさご
- (3) 朝市の実施 : R427,神鍋高原
- (4) 駅同士の情報交換 ; どうじょう、あわじ、みき

など

1-12. 地域活性化のために「道の駅」を中心とするイベントの実施例

- (1) 併設のレストランを利用し、そば祭りやそば作り体験 ; いながわ、淡河
- (2) 収穫感謝祭 ; 北はりまエコミュージアム、あさご、はが、あおがき
- (3) ふるさと祭り ; あいおい白龍城(ペーロン祭り)、あさご、あおがき、淡河
- (4) 教室の開催 ; 神鍋高原(花)、みき(木工、刃物研ぎ)
- (5) その他 ; かぼちやの重さ当て(ハチ北)、フリーマーケット(宿場町ひらふく)、ほたる刈り(北はりまエコミュージアム)

など

1-13. 都市居住者(消費者)に伝えたいこと、自由意見

- (1) スーパーや百貨店と比べて荷姿・量について少しは違和感が、また小さな虫が入っているかも知れないが、道の駅の商品(農産物、水産物)は新鮮さ、安心・安全性が特徴であることをよく理解してほしい ; いながわ、どうじょう、あわじ、神鍋高原
- (2) 地元の特徴がある商品を選択してほしい ; 淡河
- (3) 地元の情報をもっと活用して!! ; 北はりまエコミュージアム
- (4) 消費者のマナー、モラルの向上を(施設をきれいに、商品を丁寧に) ; やぶ
- (5) イベントに積極的に参加してほしい ; みき
- (6) 地元の人と消費者との心の繋がり、安らぎの場として活用を ; あさご、播磨いちのみや
- (7) 地域観光の情報の基点としてもっと活用してほしい ; はが



### Ⅲ. 「道の駅」の生産者から調査(面談聞き取)

生産者に対する面談内容は、主に「いながわ」「とうじょう」「淡河」より聴取したものを記載した。(その他の駅とも共通部分が多い。

- (1) 道の駅に納入農家はほとんどが兼業農家であり、小規模で農産物を栽培しており、ほぼ毎日搬入している人は高齢者(60歳以上)。比較的若い人は会社が休みの土・日曜日のみの持ち込み。
- (2) 農産物は販売所オープンの1時間以上前から次ぎ次と持ち込まれる。
- (3) 生産者の人達は高齢にもかかわらず皆さん生き生きとしており、新鮮な野菜の栽培・消費者への提供および若干の小遣い稼ぎなどが生きがいとなっているように感じた。但し、大規模な専業農家の参加は少なくスーパーなど都市向けの出荷である実態をみると道の駅での農産物の販売がその地区の大きな活性化につながっているかは？である。
- (4) 人間の命のもととなる農業に関わられ、誇りをもって携わっている。
- (5) 自然災害に一番左右される農業で打撃を受けることもあるが、楽しんで取り組んでいる。
- (6) 道の駅での農産物の販売価格は生産者個々が行っている。スーパーなどの約半値を目標としている。それでも納入価格は流通業者に納入するよりは高めである。(商品への生産者の名前、価格などを80歳以上と思われる高齢者がパソコンに向かいバーコードを入力していた)。
- (7) 消費者に対して；少々形がわるくても、葉が虫に食べられていても、生産者は一生懸命栽培しているのでかえってこのような商品は安全なので、購入してほしい。
- (8) 後継者問題は、どこの農家の人も頭を抱えている。学校教育の中で「農業の大切さ」を学ばせたり、農作業の体験をさせる機会を作り、子供の頃より興味をもたせてほしい。
- (9) 有機栽培については、何件か取り組んでいるが、いろいろ難問題も多い。しかし、安心・安全の野菜作りをめざして、農薬の使用を極力抑えるようにしている。  
(「とうじょう」は有機栽培比率80%)

(生産者との面談風景)



納品車の列(「いながわ」)



お話を聞く河野さん「いながわ」



お話を聞く谷垣さん「とうじょう」



お話を聞く吉田さん「淡河」



#### IV. 「道の駅」の利用者アンケートの調査

兵庫県の「道の駅」26駅の内13駅を訪問し、その利用者を対象として318人よりアンケートを実施した。アンケート調査期間が10月24日～11月21日で、ちょうど台風23号の被害により農産物の市場価格が高騰し、ピークのとくと重なったため、アンケートの対象者は農産物(特に野菜)の買い物客が主体で、アンケート調査としてはかなり偏ったものとなった。また、調査時間帯が「道の駅」開店前後、昼食前後であったため、一部の「道の駅」で予想された観光目的の消費者よりの調査数が少なかつとも考えられる。

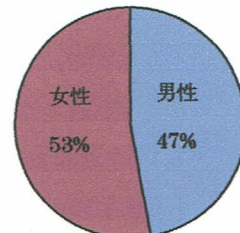
##### 1. 「道の駅」の利用者アンケートの集計結果

アンケートの内容を別紙-2に、その集計結果を別表-2に示す。

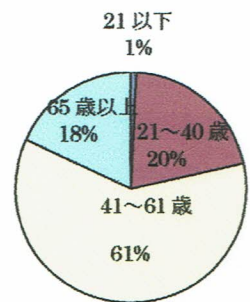
##### 1-1 「性別」、「年齢(歳)」、「どちらから」、「訪問回数」、「交通手段」

集計結果をグラフG8～12示す。

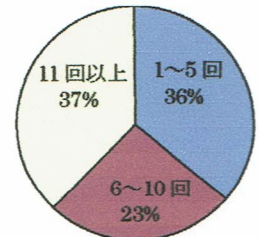
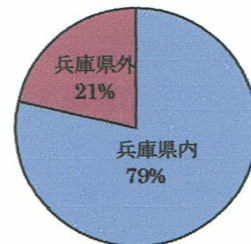
(1) 性別：男女比率にあまり差がなく、男性客も結構訪れている。



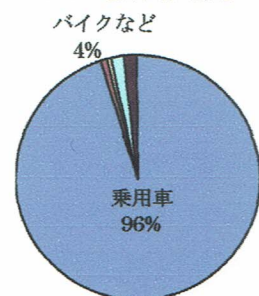
(2) 年齢：41歳以上が約80%を占め、若い人の比率が少なかった。この辺は今後の問題として、もっと若い人を集客できるイベントなど工夫が必要であろう。



(3) どちらから：兵庫県内からきた人が約80%を占め、県外からの訪問者は思ったより少なかった。これは、観光目的の消費者よりの調査数が少なかったことも関わっているのかも知れない。「いながわ」は大阪府からも近いせいとか大阪市や堺市からも農産物を買いに来ている。



(4) 訪問回数：11回以上訪れている人が約40%を占め、結構利用されていることがわかった。多い人は週に1回は訪れる(近隣の人と思われる)という人もおり、スーパーで買い物をする感覚で利用しているとのこと。



(5) 交通手段：95%以上が乗用車利用者であった。

G-12 [交通手段]

##### 1-2 「利用目的」

集計結果をグラフG-13に示す。(回答は複数回答)

買い物目的とした人が52%を占め、もっとも高い比率であった。

これは前述したように特に野菜価格が高騰した時期に重なったことやアンケート調査したところが農産物販売所(直売所)内またはその近辺であったことが高比率になったものと思われる。

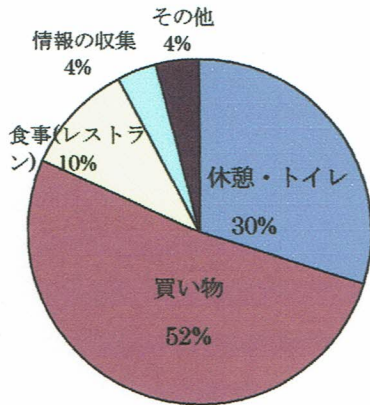
利用目的は「道の駅」により異なった傾向が見られた。

「いながわ」「淡河」など比較的都市部に近いところは、買い物目的の比率が高く、一方「あおがき」「やぶ」「ハチ北」「あさご」など郡部の駅では休憩・トイレで利用する人が多い傾向である。また、「とうじょう」「あわじ」「播磨いちのみや」「みなみ波賀」などは食事目的の利用が比較的に高い傾向を示した。(レストランが充実しているのかな?)

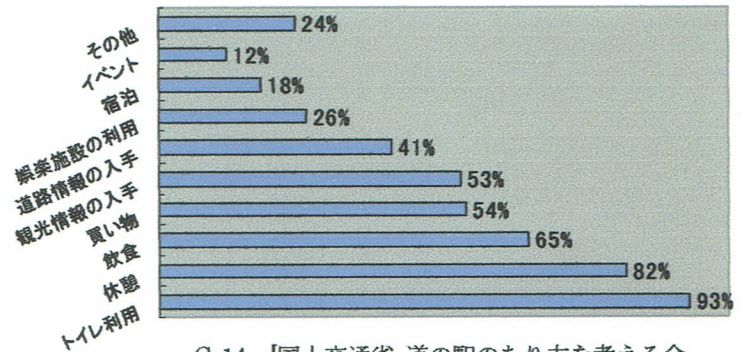


「道の駅」の主要な役割の一つである情報交換を目的とした人は案外少なく、消費者があまり期待していないのか、道の駅のPR不足なのかはよくわからないが、パソコンの普及によりホームページなどで関連情報を得ていることが考えられる。

G-13 に国土交通省がまとめた道の駅の利用目的調査結果(2001.1.19~9.18 に全国ベースでアンケート数 239 枚)を示す。これでは、買い物目的は 52% になっている。



G-13 [利用目的]



G-14 [国土交通省 道の駅のあり方を考える会 HPに寄せられた意見より 2001年9月]

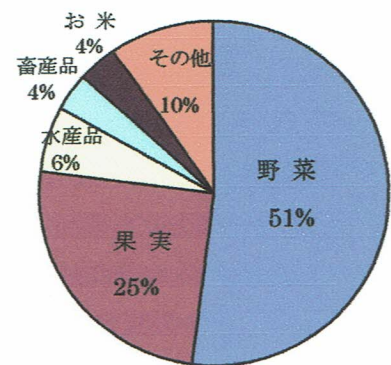
### 1-3. 「買い物内容」

集計結果をグラフ G-15 に示す。(回答は複数回答)

この調査結果前項と同様にアンケート調査したところが農産物販売所(直売所)内またはその近辺であったので野菜・果実が高比率になっている。(ほとんどの駅において)

その中でも「あわじ」「あいおい白鷺城」は海に近い立地ということで水産物が多い。

その他の多くは切り花、鉢植えである。



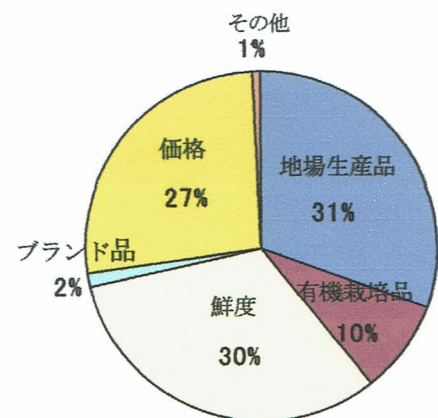
G-15 [買い物内容]

### 1-4. 「買い物をするときの重点商品」

集計結果をグラフ G-16 に示す。(回答は複数回答)

消費者は何を目安に商品を選んでいるかの観点から見ると70%以上で地場生産品、有機栽培品、鮮度にチェックを入れており、その中でも地場生産品 31%と最も重視し、価格の27%を凌いでいる。ということは、消費者は道の駅に地場で採れた新鮮で安心・安全な商品を望んでおり、しかも安く買えればより有り難いと思っている。

一部の「道の駅」で、中国産や他府県の商品を展示しているのが見られたが、今後その地域を代表する場として、また消費者との結びつきをより密接なものとするため、一考してもらいたいところである。



G-16 [重点商品]

## 1-5. 「道の駅」をより利用しやすいようにするための自由意見

### 【いながわ】

- 売れ筋のものを補充してほしい
- レジが混み合う
- 品薄で訪問が遅くなると昼頃までなくなる
- 開店を早くしてほしい
- 品数が少ない
- 駐車場をもっと広く、開店をもっとはやくしてほしい(9:30)
- ファミリーで楽しめるイベントを多く実施してほしい
- 最近他県の商品が多くなった(野菜、果物)鮮度が落ちる
- レジ周辺を広く。駐車場を有効的に使う
- 朝のうちにほとんどなくなるので、昼からも補充してほしい
- レイアウトに工夫を

### 【淡河】

- 駐車場を広くしてほしい
- 花や野菜の苗の種類をもっと多くしてほしい
- 冷凍食品に対して、保冷剤がほしい
- 朝のうちにほとんどなくなるので、昼からも補充してほしい
- 価格をなるべく安く
- 切り花がやすい。野菜は安くないが新鮮
- 開店の時間を早く(6:30)
- ガソリンスタンドを一方通行に、コンビニを併設してほしい

### 【とうじょう】

- 売り場を充実してほしい
- 価格を安く

### 【東浦ターミナルパーク】

- レジの増設を
- 橋の通行料を安くして、京阪神地区の客の増加を
- 開店時間を早くしてほしい
- 設備の充実

### 【あわじ】

- 地元産の野菜を安く、よいものがほしい

### 【あおがき】

- 夜9時頃まで営業してほしい
- 夕方6～7時夜9時頃まで営業してほしい
- 面白い何かイベントがあればよい
- 気軽に立ち寄れるのがよい
- 特産品が手に入る楽しみがある

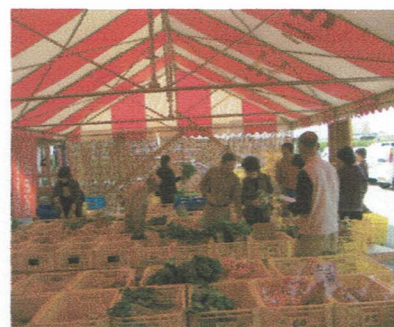
(利用者へのアンケート調査風景)



「いながわ」



「淡河」



「とうじょう」



[やぶ]

- その駅の特徴を示すものを置かれたし。(どこにでもあるものは不要)
- 野菜,果物など新鮮なものであること
- 入り口が入り難い、コンビニはいかない、道の駅だから来た
- 掃除はキレイにされている。
- 地元特産品で、おいしいもの
- くだもの、野菜などよく買う
- 現状でほぼ満足、
- 情報(例えばイベント関係)の開示(インターネットなどで調べなくても分かるように)
- もう少し夜遅くまで営業を望む
- 地場生産品を生かした商品が欲しい(特にチーズ系)

[ハチ北]

- 時間の延長
- トイレ等はきれいな方がうれしいです
- もう少し分かりやすく、広告してしてほしい
- イベントがあればよい
- 休息、トイレ、地元名産品を買うため 休息、トイレ、地元名産品を買うため 立ち寄る
- 安くて新鮮なものが買える
- うどんの味が今一つ 中国産は絶対ダメ
- お茶、コーヒの自動販売器、軽い食事
- 子供のため手軽に車から出て休憩ができる

[あさご]

- みなきれいになって満足
- 道路の安全性の確保に注意を要する その他はほぼ満足
- 地場生産と称しているが鮮度が落ちていたり、お店に出せないような二等品が目につく様に思う。  
主婦はいつも良くみます。
- 中国製品が結構おおいので、よく見て買います地場の製品を置いて下さい
- 情報の開示、インターネット等で
- 車イスの人が止められるよう 一般の人が止めている
- このままでよい。いきやすい
- 農産物の鮮度を特に要望

[あいおい白龍城]

- 地場農産物を充実してほしい
- 「道の駅」は便利・利用価値あり
- 地元の味、特色がにじみ出ている楽しい
- 野菜類を潤沢においてほしい

[その他]

- 有機栽培にあまり拘らない人も、道の駅では輸入品でないのも安心である。
- 道の駅の営業時間がところによって異なる。少し遅くいくと閉まっている。もう少し時間を延長してほしい。

## V. おわりに

今回の調査で普段私たちがドライブの途中トイレ・休憩のため、何とはなしに立ち寄っている「道の駅」についていろいろなことが判った。

その① 道の駅の多くはスーパーのような画一的な形ではなく、その地域の環境にあった運営に努力しており、各道の駅がそれなりの特徴を持っていること。その特徴は運営主体あるいは駅長(支配人)の考え方によって方向性、現状(成果)が大きく変わっている。また、「道の駅」の設置目的のうち“トイレ・休憩所施設”“道路を中心とした近隣情報の提供”に重きをおいている駅と、それらのほかに、地域活性化のための施設と位置づけて、地場農産物や特産品の販売に力を注いでいる駅に分かれていること。② 利用者(消費者)はトイレ・休憩のための利用が最も多い(G-13より)ことは当然として、買い物目的の利用が思いのほか多いこと。③ 予想されたことであるが、道の駅に農産物を納入する生産者は圧倒的に高齢者が多いこと。また、その皆さんは元気で生き生きとしていることなどである。

今回の調査の主要項目である農(水)産物に限って取り扱っている商品の中で地元比率をみると、果実の比率が低いのは理解できる(栽培に地域性がある)が、野菜の場合でもその比率50%以下が55%あり、ある道の駅では地元産を捜さないと見つからないほど北海道産から九州産まで、さらに中国産まで販売されていることについては大いに疑問を感じた。

「道の駅」はドライブ客(主に都市住居者)のオアシス的な場所であることは重要であるが、その地域の拠点であり、地元活性化の役割を期待されていること。また、利用者のアンケートで地元品に重点をおいて買い物されている人が31%もあることを忘れないでほしい。

有機(特別)栽培品の比率についても、意識調査では「意識している」「少ししている」の比率が95%と圧倒的に高いにも関わらず、実際扱っている有機(特別)栽培品の比率は50%以上が32%と残念な数字になっており、意識と実際面には大きなギャップがある。これは利用者のアンケートでも同様な傾向が見られ、地元で採れた新鮮で安心・安全な農産物を70%以上の人が望んでいることと、道の駅のアンケートの消費者に伝えたいという項目で複数駅の回答にあった消費者は商品の外観と価格を選定基準にしている人が多く、虫などがついていると即クレームになるという意見に示しているように消費者の方にも意識(要望)と実際とのギャップが存在する。

しかし、世の中全体は行政指導も含めてより安心・安全な食品を求めていることや農産物についても現在畜産物に定着している「トレーサビリティシステム」が適用(種、苗、肥料、農薬など一連の情報開示)が考えられることを十分理解し、有機(特別)栽培品の比率を高めるよう願いたい。

生産者については、その平均年齢は65歳の方が圧倒的に多く、高齢にもかかわらず皆さん元気で生き生きとされており、80歳以上と思われる人がパソコンに向かってバーコードを入力されている姿など私たちが勇気づけられる機会が多かった。ただ、今後道の駅における農産物の需要がさらに増加すると思われる中で、安定的な供給を確保するためには若い人の積極的な参加が望まれる。

消費者に対しては、新鮮で安心・安全なものを望むならばスーパーなどの価格競争にまどわされないうで、多少虫に食われていても価格が少しぐらい高くても有機(特別)栽培品を買うという姿勢が必要であろう。



さらに付け加えると、現在のような飽食の時代はそう長くは続かない。「はじめに」でも記載したように将来食料の供給不足になるのは確実に予想される中で我が国の農業の体制がもっと強くなり、外国との競争力を強化することにより食料自給率(現在はカロリーベースで40%)を上げることが重要である。そのため、消費者が実践しないといけないことは地産地消(地元で生産したものは地元で消費する)やできるだけ輸入品は買わないなどの意識改革が必要である。なぜならば、戦後の食料難のような時がくれば、土地、栽培技術のない消費者(都市住居者)がもっとも大きな影響を受けることになるのは間違いないからである。

最後に、私たち第2分科会のメンバーが「道の駅」への要望を記して本報告を終わりとしたい。

- ① 農産物の地元生産比率および有機(特別)栽培品比率の向上
- ② 地元を代表する「魅力ある特産品」の開発と効率的な広報・宣伝の実施
- ③ 生産者に対して、安心・安全農産物の栽培などの技術指導
- ④ 生産者の高齢化対策として、供給安定のために若年生産者の育成
- ⑤ 地域に密着した人たちと共同で情報発信すると共に独自のイベントなどを開催し、地元活性化の促進
- ⑥ 道の駅同士の交流を密にし、お互いの活性化を図る。

## 【謝辞】

私たち第2分科会グループが計画した「道の駅」の調査について、ご多忙にもかかわらず親切に対応・協力していただいた(財)道路保全技術センター 近畿支部 足立部長、各駅の駅長(支配人)およびアンケートに快く回答いただいた利用者、また、明るくお話を聞かせていただいた生産者の方々に感謝の念とお礼を申し上げます。

## 【参考資料】

- 国土交通省 道の駅を考える会のアンケート結果
- 道の駅 各駅のホームページ

以上

別紙 - 1 [ 道の駅についてのアンケート ]

回答は (□) 欄にチェック を ( ) 内には記入をお願いいたします。

1. 「道の駅」名 ( ) 開業年月 ( )
2. 貴駅の運営者(設置者)を教えてください。  
 自治体(市町村)  第三セクター  NPO 法人  その他( )
3. 年間売上高の推移 (開業後 3 年以上が対象) : 金額または比率(開業 2 年目を 100 とする)。
4. 次の内、貴駅で取り扱っている食品およびその加工品にチェックください。  
 生鮮野菜  野菜の加工品  生鮮果実  果実の加工品  生鮮水産物  
 水産加工品  畜産品  米
5. 地場産品の占める割合は概略どれくらいですか ?  
生鮮野菜 ( % ) 生鮮果実 ( % ) 生鮮水産物 ( % ) 米 ( % )
6. 次の食品の売れ行きランキングNo.1~3は何ですか ?

	生 鮮 野 菜	生 鮮 果 実	生 鮮 水 産 物
第 1 位	( )	( )	( )
第 2 位	( )	( )	( )
第 3 位	( )	( )	( )

7. 生鮮野菜、生鮮果実、米について有機栽培農産物・特別栽培農産物\*を特に意識して取り扱っていますか ? \*無農薬・無化学肥料栽培農産物、減農薬・無化学肥料栽培農産物  
無農薬・減化学肥料栽培農産物、減農薬・減化学肥料栽培農産物  
 意識している  少し意識している  全く意識していない
8. 有機栽培農産物・特別栽培農産物を取り扱っている割合は ? ( % )
9. 貴駅の地場生産物(特産物)をご紹介ください。
10. 貴駅が地場生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫などを教えてください。  
(例 : 宅配便の活用、メールや FAX など個別注文への対処など)
11. 地元の生産者についてお聞きします。  
(1) 貴駅に対して地場生産物の提供生産者は何人くらいおられますか ? ( 人 )  
(2) 地場生産物の提供生産者のおよその平均年齢は ? ( 歳 )
12. 買い物に来られる方で、地元の人のおよその割合は ? ( % )
13. 地域活性化のために、「道の駅」を中心としたイベントなどの実施例について教えてください。
14. 私たちは、このアンケートによる調査結果を都市住居者(消費者)にお知らせして、農(漁)村と 都市との交流促進ができればと思っています。そのために、伝えたいことをご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました



## 道の駅ご利用者の皆様

### 別紙 -2 [ 道の駅についてのアンケート ]

神戸シルバーカレッジ(市立老人大学)卒業生

私たちは兵庫県における「農(漁)村と都市との交流と展望」をテーマとして学習を行っております。『道の駅』はこれらの実践現場の1つであり、また地産地消(地元で生産したものを地元で消費する)の実践現場でもあります。

そこで、来訪者(消費者)の『道の駅』の利用実態を調査のため、下記アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

回答は(□)欄にチェックを( )内には記入をお願いいたします。

- あなたは  男性  女性
- あなたのお年は  20才以下  21~40才  41~64才  65才以上
- どちらから来られましたか？  兵庫県内( )市・町  兵庫県外( )
- 今年になって「道の駅」を利用された回数(他府県も含む) ( )回
- 今日この「道の駅」に来られた交通手段についてお伺いします。

乗用車  団体(観光)バス  路線バス・電車  バイク、自転車  徒歩

- 今日この「道の駅」に来られた利用目的についてお伺いします。(複数回答可)

休憩・トイレ  買い物  
 食事(レストラン)  情報の収集  
 その他( )

- 買い物にチェックされた方にお伺いします。

- 1) 何をお買いになる予定ですか？ また、何をお買いになりましたか？ (複数回答可)

野菜およびその加工品  くだものおよびその加工品  
 水産品およびその加工品  畜産品およびその加工品  
 お米  その他( )

- 2) 買い物をするとき次のうちどれに重点をおいて、商品を選びますか？ (複数回答可)

地場生産品  有機栽培品(減農薬品を含む)  
 鮮度  ブランド(例：丹波黒豆、こしひかり等)  
 価格  その他( )

8. 「道の駅」をより利用しやすくするためのご要望やご意見など自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました



別表-1 [兵庫県「道の駅」リストおよび調査担当グループと訪問日]

道の駅名	運営者	駅長	住	所	Tel	Fax	担当Gr	訪問日
あいおい白龍城	(株)あいおいアクアポリス	杉本 清一	相生市那波南本町8-55		0791-23-5995	0791-23-4712	第一グループ	2004.10.24
播磨いちのみや	(株)播磨いちのみや	岡本 成人	宍粟郡一宮町須行目510-1		0790-72-8666	0790-72-8667		
山崎	山崎町特産センター(有)	荒木 博	宍粟郡山崎町今宿96-1		0790-63-0400	0790-63-0401		
みなみ波賀	(株)波賀メイプル公社	田中 真人	宍粟郡波賀町安賀8-1		0790-75-3999	0790-75-3998		
はが	(株)波賀メイプル公社	一野 博文	宍粟郡波賀町原149		0790-75-3711	0790-75-3839		
しんぐらう	新宮町	横田 哲男	揖保郡新宮町平野字溝越99-2		0791-75-0548	0791-75-0549		
ちくさ	千種町観光協会	清水 要	宍粟郡千種町下河野745-5		0790-76-3636	0790-76-3326		
宿場町ひらぶく	(株)道の駅平福	岡田 昌樹	佐用郡佐用町平福988-1		0790-83-2373	0790-83-2373		
いながわ	(株)いながわフレッシュパーク	井上 清太郎	川辺郡猪名川町万善竹添70-1		072-767-8600	072-767-8686		
とうじょう	(株)夢街人とうじょう	岡田 和一	加東郡真柴町南山1-5-1		0795-47-2400	0795-47-2401		
淡河	神戸市	片山 忠律	神戸市北区淡河町淡河字弘法垣643-1		078-959-1665	078-950-5081	第二グループ	2004.11.07
東浦ターミナルパーク		大木 章男	津名郡東浦町浦648		0799-75-2119	0799-75-2599		
あわじ	淡路町(淡路観光開発公社)	西田 利行	津名郡淡路町岩屋1873-1		0799-72-0201	0799-72-2214	第一グループ	2004.11.21
みき	みきやま(株)	中江 俊	三木市福井2426		0794-86-9500	0794-83-9508		
北はりまエコミュージアム	NPO法人北はりま田園空間博物館	小松原 寿人	西脇市寺内字天神池517-1		0795-25-2370	0795-22-2123	第一グループ	—
R427かみ	(株)かみ物産センター	足立 勝美	多可郡加美町鳥羽733-1		0795-36-1919	0795-36-1920		
うずしお	淡路鳴門岬公園開発事務組合	飛田 俊紀	三原郡南淡町福良字鳥取丙947-22		0799-52-1157	0799-52-2890	第三グループ	2004.11.06
やぶ	養父市場開発(株)	安原 良二	養父市養父市場1294-77		079-665-0774	079-665-0227		
あおがき	農事組合法人おいでな青垣	足立 勝美	氷上郡青垣町西芦田字笹淵541-1		0795-87-2300	0795-87-2301	第三グループ	2004.11.21
ハチ北	福岡振興会	井上 俊一郎	美方郡村岡町福岡608-1		0796-96-1600	0796-96-1611		
あさご	朝来町	黒川 あや子	朝来郡朝来町多々良木牧野213-1		079-678-0800	079-678-0800	第一グループ	—
神鍋高原	(株)日高町振興公社	西村 千賀子	城崎郡日高町栗栖野59-13		0796-45-1331	0796-45-1338		
村岡ファームガーデン	(株)むらおらか振興公社	山根 操	美方郡村岡町大糠32-1		0796-98-1129	0796-98-1166	第一グループ	—
但馬楽座	やぶ温泉観光(株)	田原 忠資	養父市上野299		079-664-1000	079-664-1661		
フレッシュあさご	(株)フレッシュあさご	池野 雅視	朝来郡朝来町岩津字薬師前95-1		079-670-4120	079-670-4121	第一グループ	—
あゆの里矢田川	太平会	谷口 康弥	美方郡村岡町長瀬字大平ル		0796-95-1369	0796-95-1369		

第1Gr. メンバー : 川田、嶋谷、安部  
 第2Gr. メンバー : 山口、吉田、河野、谷垣  
 第3Gr. メンバー : 古西、西尾、三好、大西

(太字: アンケートの回答があった駅)



別表-2 訪問した「道の駅」の利用者のアンケート集計結果

(注) 利用目的、買い物内容、重点商品は複数回答

道の駅名	あいおい白鷺城	播磨いちのみや	山崎	みなみ渡賀	いながわ	とうじょう	淡河	東浦	あわじ	ハチ北	やぶ	あさこ	あおがき	集計
アンケート回収枚数	29	30	31	31	34	10	27	21	17	21	23	21	23	318
性別														
男性	12	14	10	18	11	8	11	8	14	13	10	10	11	150
女性	17	16	21	13	23	2	16	13	3	8	13	11	12	168
年齢(歳)														
20以下	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
21~40	7	6	1	4	5	2	3	4	5	5	10	5	8	65
41~64	18	18	17	13	27	8	21	11	10	13	11	15	11	193
65以上	4	6	12	14	2	0	3	6	2	2	1	1	4	57
どちらから														
兵庫県内	26	28	27	26	23	6	27	15	14	11	14	15	18	250
兵庫県外	3	2	4	5	11	4	0	6	3	10	9	6	5	68
回数														
1~5	11	10	7	12	10	6	9	6	11	8	9	7	7	113
6~10	5	10	7	8	9	1	6	4	2	7	5	7	10	81
11以上	14	10	15	11	14	2	10	11	4	6	9	7	6	119
交通手段														
乗用車	27	28	31	29	34	9	26	19	15	20	23	21	22	304
観光バス	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
路線バス・電卓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
バイク・自転車	1	0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0	0	6
徒歩	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
利用目的														
休憩・トイレ	8	16	2	12	5	3	5	1	13	21	20	18	19	143
買い物	20	24	28	25	34	6	24	18	10	9	15	17	18	248
食事・レストラン	2	7	1	7	4	4	3	0	10	2	2	3	5	50
情報の収集	2	3	1	3	0	1	2	0	0	1	1	2	2	18
その他	6	1	2	1	0	0	2	3	0	0	2	1	0	19
買い物内容														
野菜	20	22	28	21	34	10	22	18	4	12	12	16	17	236
果実	9	18	14	22	18	2	6	2	1	3	7	6	6	114
水産品	9	1	0	2	1	0	1	1	10	1	1	0	1	28
畜産品	4	2	0	1	1	0	1	0	2	1	4	0	0	16
お米	2	1	2	0	8	0	0	0	3	0	0	1	0	17
その他	1	0	1	0	5	0	10	9	0	7	5	4	2	44
重点商品														
地場生産品	19	19	22	26	23	6	13	8	11	13	6	8	23	197
有機栽培品	6	4	12	4	12	0	6	0	0	6	0	0	12	62
鮮度	15	21	18	21	28	6	20	18	10	20	6	18	28	229
ブランド	3	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	10
価格	11	15	13	18	26	5	18	15	8	18	5	15	26	193
その他	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	5



## 道の駅・あいおい白龍城

駅長；杉本 清一 氏 (株) あいおいアクアポリス (第3セクター)

開業年月；2002年7月

1. 訪問日時：平成16年10月24日(日) 13:00~15:00

2. 概要：天然温泉や地元特産品を中心とした「特産品売場」、北京料理レストラン「海鮮酒家 白龍」、ペーロン競漕用の船の展示「ペーロン海館」など豪華な施設が目立つ。

おだやかな相生湾に面し、“海と山々を眺めながら、身も心もリフレッシュ”の宣伝の如く豪華な天然温泉、周辺には広大な公園などを擁し、レジャーセンターの感がする。

生鮮野菜は、20坪程の常設テント店舗で、年間1億数千万円の売上は駅長の自慢とするところ。

(写真 インターネットより)



「道の駅」外観



特産物販売所



農産物販売コーナー

3. 利用者のアンケート回収枚数：29枚

4. 年間売上高の推移

	年間売上高	伸び率	備考
2002年	449(百万円)	—	7月18日開業
2003年	977(百万円)	172%	9ヶ月対比(7月~3月)
2004年	570(百万円)	156%	6ヶ月対比(4月~9月)

5. 取り扱っている食品および加工品

生鮮野菜および加工品(ゆず製品、味噌など)、トマト(天敵栽培で無農薬・東北産)、果実、海産物(ちりめん、カキ、くぎ煮など)など。

6. 地場産品のしめる割合

生鮮野菜 35%、生鮮果実 18%、生鮮水産物18%、米 3%

7. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果実	(生鮮) 水産物
第1位	トマト	柿	ちりめん
第2位	米		くぎ煮
第3位			



8. 生鮮野菜、果実、米、について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか？

■意識している      □ 少し意識している      □ 全く意識していない

9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は？      85%以上

10. 地元生産物（特産物）は何か？

ちりめん、カキ、トマト、ゆず製品、味噌

11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫？

空白

12. 地元生産者について

(1) 地元生産物の提供生産者は？      52人

(2) その平均年齢は？      70歳

(3) 買い物に来られる方で、地元の方の割合は？      60～70%

13. 地域活性化のために「道の駅」を中心とするイベントの実施例？

ペーロン市場、地域交流を実施している。

14. 都市居住者（消費者）に伝えたいこと？

空白

以上

# 「道の駅」 播磨いちのみや

駅長 岡本 成人 氏

開業年月；2000年4月、運営者；第3セクター

1. 概要：一宮町を走る国道29号沿いにある道の駅。地域特産物販売所では揖保の糸、兵庫竹細工、伊和せんべい、地酒、山崎町の地ビールであるフォレストピアビールなど地元の特産品を販売。ふれあい市は、地元農家の朝採りの野菜を直売している。(インターネットより、写真含む)

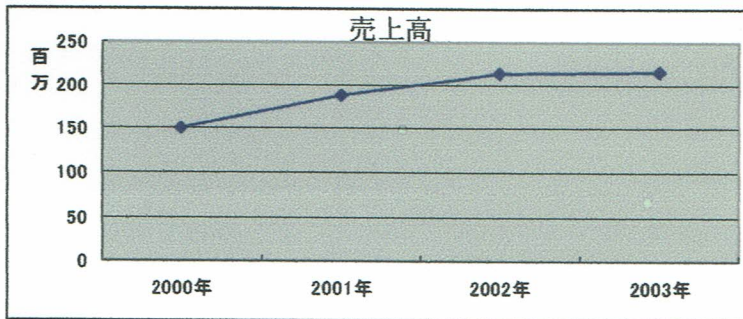


「道の駅」外観



新鮮野菜の直売所

## 2. 年間売上高の推移



### 3. 取り扱っている食品および加工品

生鮮野菜、果実、お米

### 5. 地元農産物のしめる割合

生鮮野菜 10%、 果実 20%、 お米 5%

### 6. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果実
第1位	しいたけ	梨
第2位	大根	柿
第3位	キャベツ	りんご

### 7. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか

意識している  少し意識している  全く意識していない

### 9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 0%



10. 地元生産物(特産物)は何か

そうめん、黒大豆製品、揚げかきもち

(2) ぶどう(季節限定:8月、9月)

(3) お米(山田錦)、地酒

11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫  
特になし

12. 地元生産者について

(1) 地元生産物の提供生産者は 5人

(2) その平均年齢は 65歳

(3) 買い物に来られる方で、地元の人割合は 30%

13. 地域活性化のために、「道に駅」を中心とするイベントの実施例

(1) 鳥取産のスイカ祭り(6月)

(2) 赤穂市坂越産のカキ祭り(2月)

14. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと

最近、若者の田舎離れ、少子高齢化などと都市部でないところの活気のなさが問題になっています。道の駅は、その中で行楽に出かける際の立ち寄るスポットとして人気を集めています。気軽に立ち寄ることができ、その町の良さを知ってもらうにも絶好の場所だと思っています。我々職員も少しでも役に立つよう努力いたします。

以上

# 「道の駅」 は が

駅長 一野 博文 氏

開業年月；1993年4月、運営者；第3セクター

1. 概要：一宮町を走る国道29号沿いにある道の駅。地域特産物販売所では揖保の糸、兵庫竹細工、伊和せんべい、地酒、山崎町の地ビールであるフォレストピアビールなど地元の特産品を販売。ふれあい市は、地元農家の朝採りの野菜を直売している。



「道の駅」外観



特産物の販売所

2. 年間売上高の推移 情報なし

3. 取り扱っている食品および加工品

生鮮野菜、果実および加工品

4. 地元農産物のしめる割合

生鮮野菜 10%、果実 20%

5. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果実
第1位	大根	梨
第2位	白菜	柿
第3位	キャベツ	りんご

6. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか

意識している  少し意識している  全く意識していない

7. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 10%

8. 地元生産物(特産物)は何か

自然薯、りんご、こんにやく

9. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫

リピータ対策

10. 地元生産者について

(1) 地元生産物の提供生産者は	20人
(2) その平均年齢は	65歳
(3) 買い物に来られる方で、地元の人割合は	20%



11. 地域活性化のために、「道に駅」を中心とするイベントの実施例

(1) 周年祭

(2) 秋まつり

12. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと

近くに温泉施設や滝 100 選になっている原不動滝などがあり、四季を通じて観光が楽しめる。

特に秋になると県下でも有名な赤西、音水の 2 つの溪谷の紅葉がとてもすばらしい。

以 上

# 「道の駅」 しんぐら

駅 長 ; 横田 哲夫 氏

開業年月 ; 1996年12月、運営者 ; 自治体(新宮町)

1. 概 要 : 館内には訪れる人々に町の文化、歴史、観光、特産品などの情報を提供するコーナーがあり、とても便利。また、隣接して青空市場もあり地元で採れた新鮮な野菜が売られている。レストランではそうめんをいかした料理もあり好評を呼んでいる。(インターネット、写真含む)  
(インターネットより、写真含む)

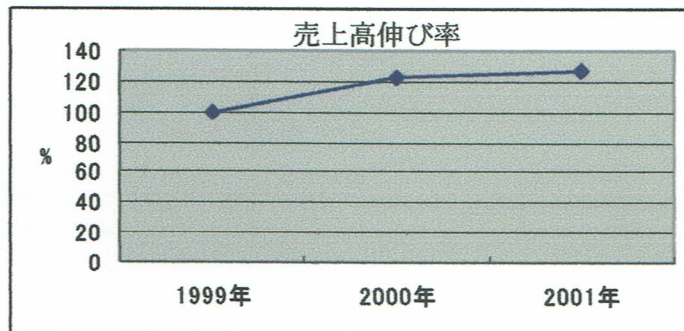


道の駅外観



特産品売り場

2. 年間売上高および推移



3. 取り扱っている食品および加工品  
生鮮野菜、果実の加工品、お米

4. 地元農産物のしめる割合  
生鮮野菜 20%、お米 7%

5. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果 実
第1位	—	—
第2位	—	—
第3位	—	—

6. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか  
 意識している     少し意識している     全く意識していない

7. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 回答なし

8. 地元農産物は何か

和菓子、天然にがり豆腐、手延そうめん



9. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫 回答なし
10. 地元生産者について
- |                         |     |
|-------------------------|-----|
| (1) 地元生産物の提供生産者は        | 71人 |
| (2) その平均年齢は             | 65歳 |
| (3) 買い物に来られる方で、地元の方の割合は | 20% |
11. 地域活性化のために、「道に駅」を中心とするイベントの実施例  
スタッフが少なくイベントができない
14. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと  
回答なし

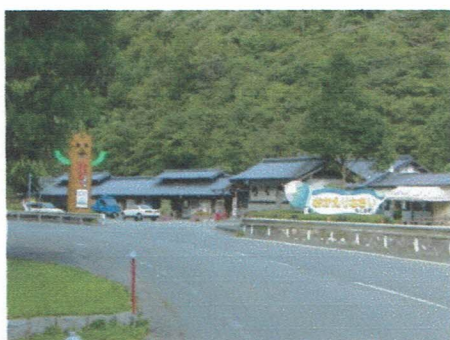
以上

# 「道の駅」 ちくさ

駅長 : 清水 要 氏

開業年月 : 1993 年 4 月、 運営者 : 第三セクター

1. 概 要 : : 岡山県、鳥取県との県境に位置する千種町の南端、南光町との境にある道の駅。県道 72 号(若桜南光線)沿いの美しい溪谷に建っている。山菜うどん、うどん定食が名物のレストラン、自然水、こんにやく、山菜を販売する物産コーナー、日中は常時 3 名の地元の案内人が常駐する観光案内所があるほか、9:00~17:30 には高原野菜、山菜加工品、木工品などを直売する「ふれあい市」が開催される。(インターネットより写真も含む)



「道の駅」外観



特産品売り場

2. 年間売上高の推移 : 回答なし
3. 取り扱っている食品および加工品、  
生鮮野菜および加工品、果物、畜産品、米
4. 地元農産物の占める割合  
生鮮野菜 90%、 米 100%
5. 売れ行きランキング
- | 生鮮野菜  |      |
|-------|------|
| 第 1 位 | しいたけ |
| 第 2 位 | 旬の野菜 |
| 第 3 位 | 山菜   |
6. 生鮮野菜 果実、米 について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか。  
■ 意識している □ 少し意識している □ 全く意識していない
7. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は ? 30%
8. 地元生産物(特産物)は何か やたらづけ
9. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫 特になし
10. 地元生産者について
- |                        |       |
|------------------------|-------|
| (1) 地元生産物を提供する生産者は     | 289 人 |
| (2) その平均年齢は            | 60 歳  |
| (3) 買い物にこられる方で、地元の人割合は | 10 %  |
11. 地域活性化のために、「道の駅」を中心とするイベントの実施例は  
ちくさねぎの PR のため、地元生産者組合と一緒にネギフェアの開催
12. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと 特になし



# 「道の駅」 宿場町ひらふく

駅 長 ; 岡田 昌樹 氏

開業年月 ; 1999年9月、運営者 ; 第三セクター

1. 概 要 : 中国縦貫自動車道佐用ICから北へ約2キロメートルに「道の駅 宿場町ひらふく」がある。「宿場町ひらふく」は、地域の食材を使ったレストランや手づくり商品を販売する物産販売所と、道路情報や周辺の観光案内をタッチパネル式で見ることができる情報コーナーを備えている。新鮮野菜は取り扱っていない。(インターネットより、写真を含む)



道の駅外観



特産品

2. 年間売上高および推移 情報なし
3. 取り扱っている食品および加工品  
果実および加工品、お米
4. 地元農産物のしめる割合  
果実 3%
5. 売れ行きランキング
- | 果実  |     |
|-----|-----|
| 第1位 | 梨   |
| 第2位 | みかん |
| 第3位 | 柿   |
6. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか  
 意識している     少し意識している     全く意識していない
7. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 80%
8. 地元農産物は何か  
味噌、こんにゃく、お茶、はちみつ
9. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫 広告チラシ
10. 地元生産者について
- |                         |     |
|-------------------------|-----|
| (1) 地元生産物の提供生産者は        | 10人 |
| (2) その平均年齢は             | 65歳 |
| (3) 買い物に来られる方で、地元の方の割合は | 50% |

11. 地域活性化のために、「道に駅」を中心とするイベントの実施例
  - (1) 丹波黒枝豆・自然薯・焼芋の店頭販売
  - (2) フリーマーケット
12. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと  
回答なし

以 上



「道の駅」 いながわ 支配人 ; 井上 清太郎 氏

開業年月 ; 2000年11月、運営者 ; 第3セクター

1. 訪問日時 : 11月6日(土) 8:30~10:45

2. 概要 : 農産品(特に野菜)の販売に力を入れており、駐車場、農産物販売センター内も広い。台風以降野菜が高騰したこともあり、販売センターが開店する1時間も前から利用者が並び始め会場直前には100名以上が列を作っていた。当駅は大阪府とも近く大阪市内や堺市からも多くの人に来ていた。

生産者は約200人、主に「道に駅」へ納入している。(猪名川町の世帯は約800)

生産者は開店の1時間半も前から次から次へと新鮮な野菜を搬入し、値付けは生産者個々が行っていた。皆さん、生き生きとしており「お早うございます」と挨拶すると笑顔で応えてくださり、都会では味わえない暖かいものを感じた。

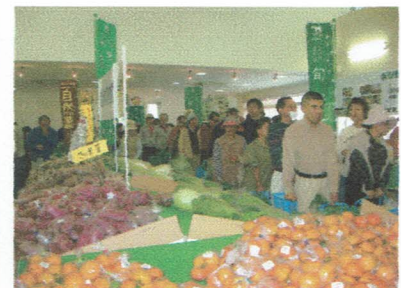
土産品コーナー、レストラン(そばの館)はさほど広くない。



農産物販売センター



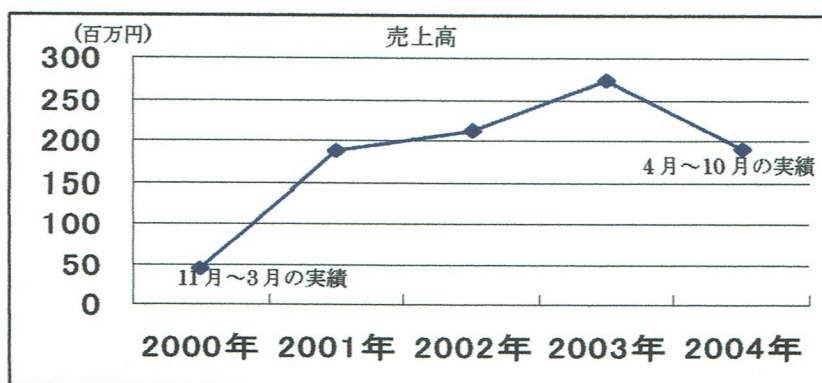
準備を終えたセンター内



買い物客で賑わうセンター内

3. 利用者のアンケート回収枚数 : 34 枚

4. 年間売上高の推移



5. 取り扱っている食品および加工品

生鮮野菜および加工品、果実

6. 地元農産物のしめる割合

生鮮野菜 70%、果実 1%

## 7. 売れ行きランキング

	<u>生鮮野菜</u>	<u>果実</u>
第1位	トマト	柿
第2位	キュウリ	ユズ
第3位	ナス	イチジク

8. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか  
 意識している     少し意識している     全く意識していない
9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は    5%
10. 地元生産物(特産物)は何か  
生しいたけ、寒天
11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫  
(1) 生産出荷者に品質、荷造り、価格などについて JA や普及所の協力の下に常に注意し、安心・安全を啓発している。  
(2) ロコミによるリピーターが増加している。
12. 地元生産者について  
(1) 地元生産物の提供生産者は    210 人  
(2) その平均年齢は    65 歳  
(3) 買い物に来られる方で、地元の人割合は    20 %
13. 地域活性化のために、「道に駅」を中心とするイベントの実施例  
町内産のそば、新鮮野菜を使ったそばメニューを提供するレストラン“そばの館”を併設。これを中心に12月に新そばまつりを実施。他道の駅春まつり・夏まつり・秋の収穫祭などを実施している。
14. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと  
スーパー、百貨店に比べて荷姿や量について、少しは違和感もあると思いますが、道の駅の商品は切り売りや量り売りのものはなく、あるがままの状態での素朴な商品が多いため、見た目はきれいではないが味の良さ・新鮮さが好まれている。  
農家の方が一生懸命生産した様々な商品を揃えているので、道の駅で買い物を楽しめる。

以 上



# 「道の駅」

とうじょう

駅長 岡田 和一 氏、

開業年月；2000年4月、 運営者；第3セクター

1. 訪問日時：11月6日(土) 11:30~14:30
2. 概要：地元を重視する運営をしており、観光客については積極的な勧誘はしていない。  
特産品、レストランの充実やコンビニ am・pm を併設など地元の人の生活の場となっている。

野菜の販売所は有機野菜を中心に駅内と屋外のテントで生産者団体「コスモス会」運営(月・水・金は休み)と併売しているが、売り場面積はあまり広くなく、品揃えも多くない。

「コスモス会」は有機野菜について保田先生の指導を受けたとのこと。

「あわじ」「みき」と定期的に交流している。



販売センターと農産物販売



屋内農産物販売コーナー



屋外農産物テント販売所

3. 利用者のアンケート回収枚数：10 枚
4. 年間売上高および推移 2003年度売上高：105% (対2001年比)
5. 取り扱っている食品および加工品  
生鮮野菜および加工品、果実および加工品、お米
6. 地元農産物のしめる割合  
生鮮野菜 100%、 果実 100%、 お米 30%
7. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果実
第1位	いちご	ぶどう
第2位	山の芋	桃
第3位	—	—
8. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか  
 意識している  少し意識している  全く意識していない
9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 80%
10. 地元農産物は何か  
山の芋、お米(山田錦)、 (小さな釣針)
11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫 回答なし
12. 地元生産者について
  - (1) 地元生産物の提供生産者は 105人 (内コスモス会 80人)
  - (2) その平均年齢は 65歳
  - (3) 買い物に来られる方で、地元の人割合は 50%

13. 地域活性化のために、「道に駅」を中心とするイベントの実施例

(1) 秋のみりの感謝祭(収穫に感謝し、12月に行なう)

(2) スイカ祭り

14. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと

きれいな虫のいない野菜は消費者が求める無農薬、無科学肥料で作るのはコストがかかる。

小さな虫がいるからと、即クレームにするのは疑問です。ここらあたりの問題を議論し、PRを望む。

以 上



# 「道の駅」 淡河

駅長 片山 忠律 氏

開業年月；2003年4月、 運営者；自治体

1. 訪問日時：11月7日(土) 9:20～13:30

2. 概要：淡河地区は神戸市より産業振興地域として指定され、その活性化のための3つの事業[① 農産物(安心・安全野菜)の直売所の立ち上げ、② 5Km以内にガソリンスタンドがなかったので道の駅に隣接して給油所の設置、③ 休農地を利用してソバの栽培し、付加価値をつける(十割ソバ)]を推進しており、現在3つの事業で170万円/日の売り上げを達成している。JAとも協調体制にあり、イベントなど当駅が中心となり行われているとのことで地区活性化のため、重要な拠点となっている。

農産物直売所はあまり広くないが、めずらしい野菜もあり種類も多い。切り花や鉢植えも豊富に販売しており、安価だった。当地区農産物生産者約900人の内120人が参加(兼業80%、専業20%)している。

レストランでは十割ソバの蕎麦打ちの体験もできる。



道の駅全景



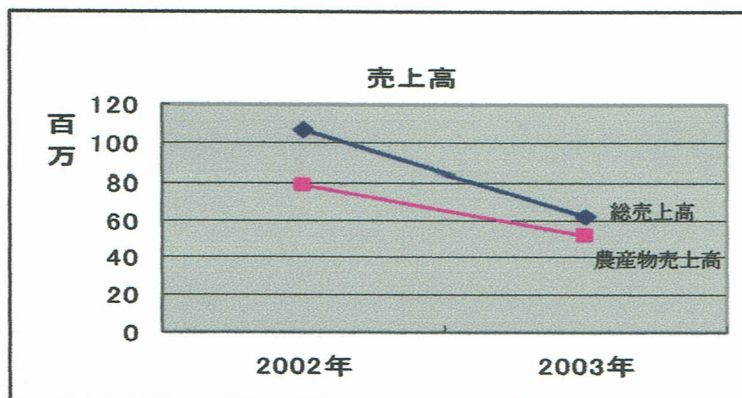
展示された野菜



花の展示も終え、準備完了

3. 利用者のアンケート回収枚数：27枚

4. 年間売り上げ高および推移



2003年度は2003.4.22～2004.3.31

2004年度は2004.4.1～2004.9.30

5. 取り扱っている食品および加工品

生鮮野菜および加工品、果実、畜産品、お米

6. 地元農産物のしめる割合

生鮮野菜 85%、果実 10%、お米 5%

7. 売れ行きランキング

	<u>生鮮野菜</u>	<u>果実</u>
第1位	大根	柿
第2位	キュウリ	—
第3位	ナス	—

8. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか  
 意識している  少し意識している  全く意識していない

9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は ?

10. 地元農産物は何か

新鉄砲ユリ、チューリップ

11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫  
回答なし

12. 地元生産者について

(1) 地元生産物の提供生産者は 75人

(2) その平均年齢は 68歳

(3) 買い物に来られる方で、地元の方の割合は 10%

13. 地域活性化のために、「道に駅」を中心とするイベントの実施例  
道の駅淡河ふるさとまつり 年2回開催。

14. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと

地元農産物を中心に販売している。

直売所に併設されたレストラン“淡竹”では、地元のそば粉を使用した十割そばを提供している。ぜひ打立て、茹でたての淡河のご賞味を !!

以 上



# 「道の駅」 み き 駅長 中澤 氏

開業年月；2000年4月、運営者；第3セクター

1. 概要： 国有林の森林総合開発利用計画「グリーン・ヒューマンプラン」を活用した「三木ホースランドパーク」が作られ、その馬事公園の中の産業サービス施設として設立された。

三木は伝統工芸品の播磨三木打刃物で知られた金物のまちであり、「金物展示館」を中心にイベントなどが積極的に行われている。

農産物の直売については、JAみのり朝市クラブがテナントとなり、地元生産の野菜の朝市を開き、販売している。(写真 インターネットより)

当駅は「とうじょう」「あわじ」と定期的に交流している。

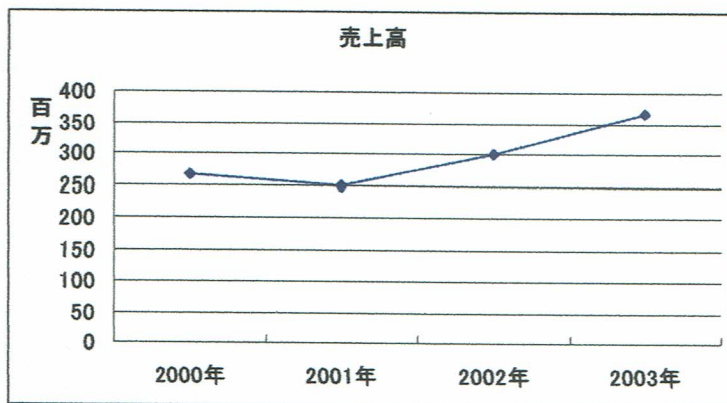


「道の駅」外観



朝市風景

## 2. 年間売上高の推移



## 3. 取り扱っている食品および加工品

生鮮野菜および加工品、果実

## 5. 地元農産物のしめる割合

生鮮野菜 50%、果実 10%

## 6. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果実
第1位	白菜	みかん
第2位	大根	ぶどう
第3位	レタス	梨

7. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか  
 意識している     少し意識している     全く意識していない
9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は    不明
10. 地元生産物(特産物)は何か  
 (1) 金物、大工道具  
 (2) ぶどう(季節限定:8月、9月)  
 (3) お米(山田錦)、地酒
11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫  
 特になし
12. 地元生産者について  
 (1) 地元生産物の提供生産者は    12人  
 (2) その平均年齢は    65歳  
 (3) 買い物に来られる方で、地元の方の割合は    80%
13. 地域活性化のために、「道に駅」を中心とするイベントの実施例  
 (1) 金物・工具に親んでもらうイベントとして、夏休み木工教室や竹トンボ製作教室を実施。  
 (2) 三木の新しい観光グッズや土産品の開発行事「三木のいいもの発見コンクール(会議所主催)」の応募作品の展示および人気投票の会場として道の駅催事場を活用。  
 (3) 子供を対象にクリスマスコンサートを道の駅エントランスホールで、迎春用の寄せ植え教室を催事場で開催。  
 (4) 金物のまち「三木」にふさわしいイベントとして毎週土曜日(8:00~12:00)に「刃物砥ぎ」を道の駅にて実施。最近では神戸市(西区)からも多くの方が包丁を持参されるようになった。  
 (5) 道の駅の機能の一つに「地域連携の機能」があるが、現状では道の駅の運営主体もまちまちであり、道の駅の交流は全くといってもいい程ない状態である。そこで、この度「あわじ」「とうじょう」と「みき」の3駅で年に何回か道の駅同士の交流を計画した。すでに「あわじ」からは3月に「とうじょう」において、いかなごのくぎ煮づくりの実演と無料配布会を実施しており、10月には三木刃物砥ぎ職人が「あわじ」に出向き、実演を実施した。今後も年に3~4回の交流イベントを行っていく予定。
14. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと    回答なし

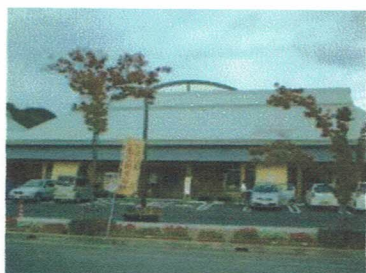
以上



# 「道の駅」北はりまエコミュージアム 駅長 小松原 寿人 氏

開業年月；2003年9月、運営者；自治体(西脇市)

1. 概要：西脇市を含む元多可郡の1市4町を『北はりま』と呼ぶ。京阪神から1時間という立地で、都市との交流を図る『北はりまハイランド構想』ができ、それを基に地域の魅力あるいくつかのポイント（サテライト）を展示物とする、地域一帯が『まるごと博物館』となる『北はりま田園空間博物館』が誕生した。そこで総合案内所の役目を果たし、西脇市の南の玄関口となり、さらに地域の人々の利用も考え、道の駅が生まれた。北はりま地域すべての観光情報やイベント情報、特産品情報等を、年間を通じてリアルタイムに知ることができる。(インターネットより、写真含む)



道の駅外観



日曜日の屋外での朝市



特産物売り場風景

2. 年間売上高および推移 情報なし
3. 取り扱っている食品および加工品  
生鮮野菜および加工品、果実および加工品、畜産物、お米
5. 地元農産物のしめる割合  
生鮮野菜 10%、果実 2%、お米 2%
6. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果実
第1位	山の芋	ぶどう
第2位	しいたけ	キーウィフルーツ
第3位	黒豆	柿
7. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか  
■ 意識している □ 少し意識している 全く意識していない
9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 50%
10. 地場生産物(特産物)は何か  
播州織り、黒田庄和牛コロッケ、すし類(巻き、さば)、地元野菜、地どりめしの具
11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫  
イベント(お茶席、もちつき大会、バスツアー)による集客
12. 地元生産者について
  - (1) 地元生産物の提供生産者は 200人
  - (2) その平均年齢は 60歳
  - (3) 買い物に来られる方で、地元の人々の割合は 40%

13. 地域活性化のために、「道に駅」を中心とするイベントの実施例  
地域のサテライトを巡るバスツアーを年3~4回(ほたる狩り、秋の収穫祭、巡回講座)
14. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと  
ここへ来れば、北はりまの情報がよくわかる。ぜひ活用を。

以 上

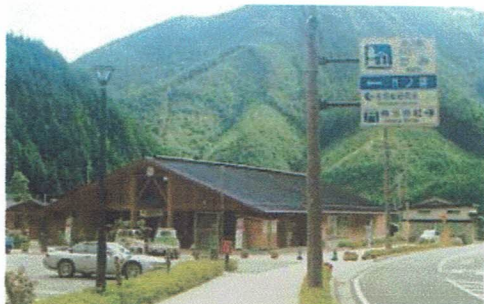


# 「道の駅」 R427 かみ

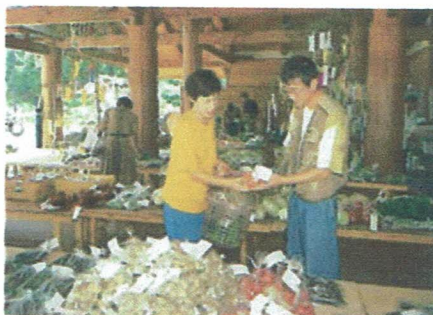
支配人 足立 勝美 氏

開業年月；1997年10月、運営者；第3セクター

1. 概要：兵庫県の阪神地区と但馬地区を結ぶ一般国道として交通量が増え続く中、東播磨初めての道の駅となり、地鶏をふんだんに使った食事や、加美町の特産品、及び県内の特産品等が楽しめる。また隣接して杉原紙研究所があり、そこでは紙漉きの体験ができる。毎週木、日曜日に町内でとれた新鮮野菜の朝市が開催されている。(インターネットより、写真含む)



道の駅外観



農産物の朝市風景

2. 年間売上高および推移 情報なし
3. 取り扱っている食品および加工品  
生鮮野菜および加工品、水産加工品、お米
4. 地元農産物のしめる割合  
生鮮野菜 90%、お米 100%
5. 売れ行きランキング
- |     | 生鮮野菜 | 果実 |
|-----|------|----|
| 第1位 | —    | —  |
| 第2位 | —    | —  |
| 第3位 | —    | —  |
6. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか  
■ 意識している □ 少し意識している □ 全く意識していない
7. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 80%
8. 地元農産物は何か 回答なし
9. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫 回答なし
10. 地元生産者について
- |                        |      |
|------------------------|------|
| (1) 地元生産物の提供生産者は       | 200人 |
| (2) その平均年齢は            | 68歳  |
| (3) 買い物に来られる方で、地元の人割合は | 30%  |
11. 地域活性化のために、「道の駅」を中心とするイベントの実施例 回答なし
12. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと 回答なし

以上

## 「道の駅」

あわじ

駅長 西田 利行 氏

開業年月 ; 1998年3月、 運営者 ; 第三セクター

1. 訪問日時 : 11月21日(日)

2. 概 要 : 明石大橋の淡路側の橋脚に接して立地しており景色が素晴らしい。海を前面に芝生の広い公園がある。

農産物も取り扱っているが、納入農家は8人で販売スペースも広くない。水産物・加工品が断然多い。水産物は、「道の駅」自らがセリに参加して仕入れており、レストランでは新鮮な水産物の利用者が目立った。

立地がよいのでバスで来る団体客も多く、団体客用の食事処が別棟（レストランとは別に）にある。昨年の来場者は約31万人で、総売上は3億円だった。

道の駅「みき」と「とうじょう」との交流販売をしている。



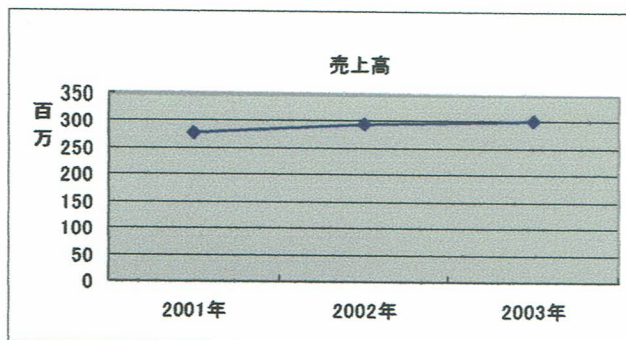
「道の駅」外観



特産品売り場

3. 利用者のアンケート回収枚数 : 17 枚

4. 年間売上高の推移



5. 取り扱っている食品および加工品

生鮮野菜、果実および加工品、生鮮水産物および加工品

6. 地元農産物のしめる割合

生鮮野菜 70%、 果実 80%、 生鮮水産品 80%



## 7. 売れ行きランキング

	<u>生鮮野菜</u>	<u>果実</u>	<u>生鮮水産品</u>
第1位	玉ねぎ	びわ	たこ
第2位	さつまいも	温州みかん	いか
第3位	大根	すいか	はまち

8. 生鮮野菜、果実、米について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか  
 意識している  少し意識している  全く意識していない
9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 20%
10. 地元生産物(特産物)は何か  
焼きあなごとその加工品、有機栽培による玉ねぎ(かくし玉)、いかなごのくぎ煮、海鮮井
11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫  
(1) イベントへの参加  
(2) 近隣駅との交流販売(みき、とうじょう)
12. 地元生産者について  
(1) 地元生産物の提供生産者は 農業者 6 人、水産物は漁協入札  
(2) その平均年齢は 60 歳  
(3) 買い物に来られる方で、地元の人割合は 10 %
13. 地域活性化のために、「道に駅」を中心とするイベントの実施例  
(1) 住民の積極的雇用  
(2) 年末の大手  
(3) 住民・近隣イベントへの積極参加  
(4) 一次生産物の加工販売
14. 都市住居者(消費者)に伝えたいこと  
一次生産物は天候や自然に大きく左右される。価格も当然ながら、昨日まで大漁だった魚が翌日からは一匹もいなくなったりするのはごく当たり前である。そこへ行けば新鮮で安価なものがいつでも手に入るという期待が大きいと思われるが、消費者が普段スーパーで購入する外国産物などと同様の感覚で商品の比較をするのは間違いである。もう少し価値感について考え方を改め同等の商品と比較しての価値感で見してほしい。そうすると必ず安価で優れたものであることがわかる。

以上

# 「道の駅」

やぶ

駅長 : 安原 良一 氏

開業年月 : 1994 年 5 月、 運営者 : 第三セクター

1. 訪問日時 : 11月 6日(土) 13時~14時30分
2. 概 要 : 円山川に沿う県道104号の東側に位置し、ドライバーの憩いや休憩の場として、また養父町のシンボル・錦鯉の泳ぐ観賞池を配して利用者の心和む工夫をしている。情報 コーナーではビデオやモニターを設置し、但馬の観光や道路情報を提供している。軽食コーナーでは道の駅弁当、日替わり弁当も販売している。

駐車場は大型車9台、普通車24台のスペースがあり、公衆電話2台、身障者用も含む16器の便器、ベビーベットも置いている。(写真 インターネットより)



「道の駅」外観



特産品売り場

3. 利用者のアンケート回収枚数 : 23枚
4. 年間売上高の推移 : 回答なし
5. 取り扱っている食品および加工品、  
生鮮野菜および加工品、果物および加工品、水産加工品
6. 地元農産物の占める割合  
生鮮野菜 30%、 果実 20%、 米 100%
7. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果実
第 1 位	さつまいも	すいか
第 2 位	さといも	なし
第 3 位		かき
8. 生鮮野菜 果実、米 について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか。  
 意識している     少し意識している     全く意識していない
9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は ? 20%
10. 地元生産物(特産物)は何か 特になし
11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫 特になし
12. 地元生産者について

(1) 地元生産物を提供する生産者は	14 人
(2) その平均年齢は	62 歳
(3) 買い物にこられる方で、地元の人割合は	30 %



13. 地域活性化のために、「道の駅」を中心とするイベントの実施例は  
特になし
14. 都市住居者(消費者)につたいたいこと  
来店者のマナー、モラルの向上
- 1) 施設をキレイに使用してほしい
  - 2) 販売用商品をていねいに扱ってほしい

以 上

「道の駅」 あおがき 代表 ; 足立 勝美 氏

開業年月 ; 1997年4月、 運営者 ; 農事組合法人

1. 訪問日時 ; 11月6日(土) 10:30 ~ 13:00
2. 概要 : 地元野菜を中心に、切り花、果物類など多品種の品揃えの販売が図られている。  
米は“あおがきこしひかり”が栽培され、農協からの委託販売、他に牛乳やヨーグルドは酪農組合員より出荷され同様に委託販売。  
また季節ごとに各種イベントや村おこし等の行事が行われている。(写真 インターネットより)



道の駅外観



野菜の販売コーナー

3. 利用者のアンケート回収枚数 ; 23 枚
4. 年間売上高の推移  
最近3年間(2001年以降)に於ける年間売上高 = 約1億4千万円 横ばい
5. 取り扱っている食品および加工品  
生鮮野菜および果実, 米
6. 地元農産物の占める割合  
生鮮野菜 % 果実 %
7. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果実
第1位	キャベツ	ぶどう
第2位	白菜	桃
第3位	枝豆	とまと
8. 生鮮野菜、果実、米 について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか  
 意識している  少し意識している  全く意識していない
9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 0 %
10. 地元生産物(特産物)は何か  
切り花、あざみ菜、こんにやくのささみ(兵庫県のブランド商品として認定)
11. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫  
(1)生産農家からの農産物の持ち込みは午前8時、引き上げは午後3時とし、販売商品の管理を適切に行っている  
(2)神姫バスと提携して団体(15名以上)の買物希望者があれば送迎バスを出す
12. 地元の生産者について  
(1)地元生産物の提供生産者は (53人)  
(2)その平均年齢は (60~70才)  
(3)買物に来られる方で地元の方の割合は (10%)



13. 地域活性化のために、「道の駅」を中心とするイベントの実施例について  
季節ごとのイベントとして春祭、夏祭、秋の収穫祭、その他の村おこし行事など、人の交流を通じて活性化を図っている
14. 都市居住者(消費者)に伝えたいこと  
特になし

以 上

「道の駅」 ハチ北 駅長 : 井上 俊一郎 氏

開業年月 : 1998年、 運営者 : 自治体

1. 訪問日時: 11月21日(日) 10:00~11:00
2. 概要: 地元産の野菜を中心とした品揃えをしたいと思っているが、山間地でかつスキー場の民宿との競合などでなかなか商品が集まらない。特に今年は台風の影響で、生鮮野菜が少なくやむを得ず、鳥取県産や北海道産の野菜で急場をしのいでいる状況である。

当駅は標高が400mに近く、クリーンな地熱を利用した駐車場融雪施設が設けられ、国交省の融雪データ採取地点となっている関係で、道の駅の中で唯一、国交省の土地に建てられている。駅敷地内に屋根つきのチェーン着脱場がある。訪問時にも他の道の駅に比べトラックの出入りが目立った。



道の駅外観



野菜売り場



お米売り場

3. 利用者のアンケート回収枚数: 21枚
4. 年間売上高の推移  
おおむね前年比約20%ぐらい伸びている(実数は明らかにしてもらえない)。
5. 取り扱っている食品および加工品  
生鮮野菜、生鮮果実、畜産品、米
6. 地元農産物のしめる割合  
生鮮野菜 30%、果実 50%、米 90%
7. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果実
第1位	キャベツ	梨
第2位	馬鈴薯	柿
第3位		ネクタリン
8. 生鮮野菜、果実、米について有機(特別)栽培農産物を意識して取り扱っているか  
■ 意識している □ 少し意識している □ 全く意識していない
9. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 10%
10. 地元生産物(特産物)は何か  
黒米(餅米)、栃餅、合鴨の燻製



11. 地元生産物の販路拡大のために、独自に行っている施策、工夫
12. 地元生産者について
  - (1) 地元生産物の提供生産者は 60人
  - (2) その平均年齢は 65歳
  - (3) 買い物に来られる方で、地元の人割合は 10%
13. 地域活性化のために、「道の駅」を中心とするイベントの実施例  
近隣の農家が栽培したジャンボかぼちゃの重さをあてるイベントを開催するほか、観光協会と共にスキー関連のイベントを行っている。
14. 都市居住者（消費者）に伝えたいこと 特になし

以上

「道の駅」 あさご

駅 長：黒川 あや子

開業年月：1988年4月 運営者：第三セクター

(1992年道の駅全国大会出席・1993年道の駅登録)

1. 訪問月日：11月21日（日）13：00～14：00 駅長不在の為お話できず資料頂く
2. 概 要：林業総合センターも併設されており、村おこしセンターの役割を果たしている、野菜類は量が豊富で、特に季節柄特産品の岩津ねぎが多く販売されていた。  
私たちが訪問した日は、秋の収穫祭（23日）の一環として餅つき即売会がされていた。  
(写真 インターネット)

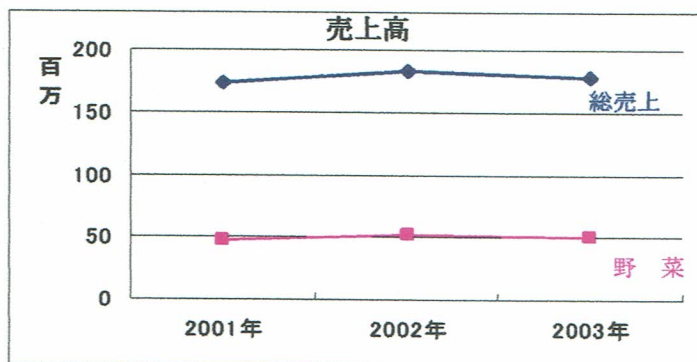


「道の駅」外観



岩津ねぎ

3. 利用者のアンケート回収枚数：34枚
4. 年間売上高の推移



5. 取り扱っている食品

生鮮野菜・生鮮果実・及びその加工品・水産加工品・畜産品・米

6. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	生鮮果実
第一位	岩津ねぎ	季節ごとの果物一般
第二位	季節ごとの野菜	
第三位	朝来みどりしお茶	





## 「道の駅」 神鍋高原

駅長：西村 千賀子 氏

開業年月：1993年11月 運営者：第三セクター

1. 概要：「ひょうご風景百選」の第1位に選ばれた神鍋高原のふもとにあり、まわりを山に囲まれた風光明媚な立地にある。一般的な設備のほか、かんなべ湯の森「ゆとろぎ」（宿泊はできない）があり好評を得ている。（写真 インターネット）



「道の駅」外観



特産品売り場

### 2. 年間売上高の推移

次の理由により記載がない（当駅は従来行き止まりの駅であったが、昨年11月に国道9号につながる蘇武トンネルが開通して、やっと他の駅と同条件となり利用者も増加してきている。したがって、推移の記載はあまり意味がないので容赦願いたい）

### 3. 取り扱っている食品および加工品

生鮮野菜および加工品、果実、水産加工品、米

### 4. 地元農産物の占める割合

生鮮野菜 15%、果実 5%、米 1%

### 5. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	果実
第1位	スイカ	梨
第2位	キャベツ	みかん
第3位	とうもろこし	桃

### 6. 生鮮野菜、果実、米のついて有機（特別）栽培農産物を意識して取り扱っているか

意識している     少し意識している     全く意識していない

### 7. 有機（特別）栽培農産物を取り扱っている割合は

50%

### 8. 地元生産物（特産物）は何か

高原キャベツ、スイカ、りんご、とうもろこし、栃餅、桑の葉うどん、山椒味噌

### 9. 地元生産物の販路拡大のために、独自に行っている施策、工夫

ふるさと便の発信基地：年3回ふるさと味の味会員に、季節の野菜・特産品などを届けている。



10. 地元生産者について

- |                        |     |
|------------------------|-----|
| (1) 地元生産物の提供生産者は       | 50人 |
| (2) その平均年齢は            | 60歳 |
| (3) 買い物に来られる方で、地元の人割合は | 20% |

11. 地域活性化のために、「道の駅」を中心とするイベントの実施例

朝市、「道の駅」創業記念祭、冬の商工会誘客事業、花の講習会など行っている。

12. 都市居住者（消費者）に伝えたいこと

専業農家が少ないため商品が多い日、少ない日のばらつきはあるが、スーパーにはないその季節、その土地の野菜や特産品などを見つける楽しさを味わってほしい。

以上

# 「道の駅」 村岡ファームガーデン

駅長：山根 操 氏

開業年月：1992年 6月、運営者：第三セクター

1. 概要：四方を1000m級の山々に囲まれ、その中腹と矢田川、湯舟川沿いに42の集落が形成されている村岡町。町では87%を占める雄大な林野を利用したの林業と、高冷地での野菜栽培、但馬牛の飼育などが行われている。「道の駅・村岡ファームガーデン」は行き交う人々の心の寄り処となるべく、施設を充実。但馬牛の原産地にふさわしく、ステーキや、山菜などを使った郷土料理をご用意し、休憩はもちろん地域交流の拠点として利用できる。(インターネットより、写真も含む)



「道の駅」外観



特産品売り場

2. 年間売上高の推移：(開業2年目を100として) 180  
3. 取り扱っている食品および加工品  
生鮮野菜及び加工品、生鮮果実、米  
4. 地元農産物の占める割合(物品販売の全体からと判断します)：生鮮野菜 15%  
5. 売れ行きランキング

	<u>生鮮野菜</u>	<u>果実</u>
第1位	キャベツ	ネフタリン
第2位	トマト	リンゴ
第3位	ピーマン	キウイ

6. 生鮮野菜、果実、米 について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っていますか  
■ 意識している □ 少し意識している □ 全く意識していない
7. 有機栽培農産物・特別栽培農産物を取り扱っている割合は？ 30 %
8. 地元生産物(特産物)はなにか？  
キャベツ 白菜 大根 ジャガイモ
9. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策 工夫は？  
記載なし
10. 地元生産について 記載なし
11. 地域活性化のために「道の駅」を中心とするイベントの実施例は？  
記載なし
12. 都市住居者(消費者)伝えたいことは？ 記載なし 以上



# 「道の駅」

## 但馬楽座

駅 長 ; 田原 忠資

開業年月 ; 1991年6月、 運営者 やぶ温泉観光(株)

1. 概 要 ; 地元の生鮮野菜を主体に、豊富な鮮魚の直売も行はれていることが特徴。  
また良質な温泉に恵まれ、国道9号線沿いに位置し山陰・但馬路観光の中継点として休憩と共に宿泊にも多く利用されている。食の面では柔らかく脂身たっぷりの但馬牛が好評。  
(写真 インターネットより)

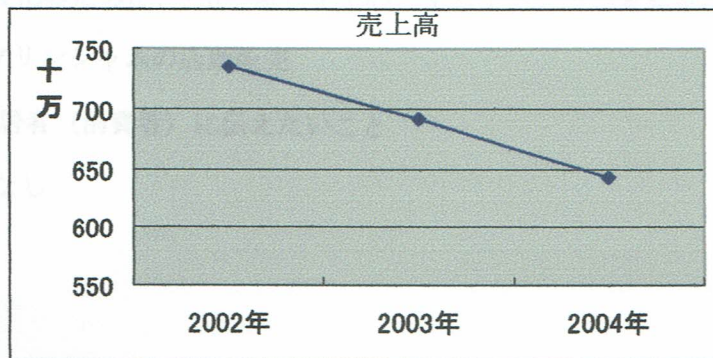


道の駅外観



特産品売り場

### 2. 年間売上高の推移



### 3. 取り扱っている食品および加工品

生鮮野菜および加工品、生鮮果実および加工品、生鮮水産物および加工品

### 4. 地場産業品の占める割合

生鮮野菜 100%      生鮮果実 30%      生鮮水産物 90%

### 5. 売れ行きランキング

	生鮮野菜	生鮮果実	生鮮水産物
第1位	大 根	梨	カニ
第2位	白 菜	柿	はまち
第3位	玉 ネギ	みかん	い か

### 6. 生鮮野菜、果実、米等について有機栽培農産物、特別栽培農産物を意識して取り扱っているか

意識している       少し意識している       全く意識していない

7. 有機栽培農産物、特別栽培農産物を取り扱っている割合は 20%
8. 地元農産物（特産物）は何か  
青豆みそ、ネクタリンジャム、山椒佃煮（しいたけ・やまぶき）
9. 地元生産物の販売拡大のために、独自に行っている施策、工夫  
特になし
10. 地元生産者について
  - (1) 地元生産物の提供生産者は (20人)
  - (2) その平均年齢は (55才)
  - (3) 買い物に来られる方で地元の方の割合は (10%)
11. 地域活性化のために、「道の駅」を中心とするイベントの実施例について  
ネクタリンジャムの店頭販売
12. 都市住居者（消費者）に伝えたいこと  
特になし

以上